

焼津市歴史民俗資料館 / 焼津小泉八雲記念館

Yaizu City Museum of History and Folklore / Yaizu City Lefadio-Hearn Memorial Museum

Yaizu City Museum Letter



Vol.1



あけまして
おめでとうございます



新年のご挨拶



皆様には、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。NHKの連続テレビ小説「ばけげん」が始まった昨年、焼津小泉八雲記念館は、多くのご来館者に恵まれました。また、みなさまのご支援もあって多くの事業を開催することができました。厚く御礼申し上げます。今年も引き続きよろしくお願いたします。

昨年10月にNHK大阪のスタジオを訪ねた際、銀二郎（前田為二）役の寛一郎さんから、「ご先祖が朝ドラで描かれるってどんな心境ですか？」と質問され、一瞬、答えに悩みました。正直なところ、驚きと喜びの気持ちが一番、でも何か不思議な感覚です。

世田谷区に住んでいた7歳の頃、はじめてゴム製のサッカーボールを買ってもらい、家の廊下で蹴っていたら、誤ってセツ愛用の姿見にあててしまい、ガラスにひびを入れてしまいました。今思えば、それが、セツを意識するきっかけとなりました。その際、姿見の木製フレームの右側だけが褪色しているのに気づき、親に訊ねると、「大きいおばあちゃんは、いつも鏡の前で身だしなみを整え、右側に濡れ手ぬぐいをかける癖があった」とのこと。妙に腑に落ちたのです。その時、セツは晩年まで気丈さを貫いた女性だったのかと想像しましたが、その通りでした。また異文化を受け入れるオープン・マインドや八雲同様、目に見えない世界をリスペクトする心をもつセツが、現代社会に必要な人物とみなされた結果、朝ドラの主人公のモデルに選ばれたものと思われます。

セツは八雲の没後に、ふたりで暮らした13年8か月の日々を回想した『思い出の記』をのこします。そこには、八雲が愛した場所として「マルティニークと松江、美保の関、日御碕、それから焼津」とあります。いっぽうで嫌いな場所は「ニュ・ヨーク」。物質文明に満たされても、けっして人間は幸福になれないという八雲の価値観が浮かび上がります。また「淋しい田舎の、家の小さい、庭の広い、樹木のたくさんある屋敷に住みたい」と、八雲が願っていたと言います。その意思を継いだ長男一雄は、八雲の理想の家を後に多摩川の畔に建て、私はそこで生まれ育ちました。庭が二百坪、家は十五坪、屋敷内には山桜・杏・椎など多種の樹木があり、都内とは思えぬ豊かな自然の恵みももらっていました。

セツの『思い出の記』からみえてくる八雲の思考は、アニミズムではないでしょうか。森羅万象に靈魂を認め、自然や異界をリスペクトし、人間が地球の支配者ではないという考え方です。地球の未来を考える時、このような思考が大切ではないかと思っています。

本年は午年。八雲の生誕地のギリシャ・レフカダの町章は空飛ぶ馬のペガサスです。皆さまの飛躍の年となりますように。では名誉館長講座や子ども講座でみなさまとお目にかかりたいと思います。引き続き、焼津小泉八雲記念館へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

焼津小泉八雲記念館名誉館長 小泉 凡



謹賀新年



石津浜から望む富士山（初日の出の様子）



海蔵寺の絵馬（焼津市東小川）



香集寺の絵馬（焼津市浜当日）



馬つなぎの松（焼津市上新田）

焼津市内には、弘徳院・香集寺・海蔵寺の絵馬や荒祭の流鏝馬、家康ゆかりの石脇の駒つなぎの松・上新田の馬つなぎの松など、午に関連する史跡や文化財があります。ゲン担ぎに訪れてみるのもいいかもしれませんね。

新年あけましておめでと〜う〜げんごます



今年、午年！十干十二支でいうと43番目丙午の年です。

馬は古来より神聖視され、神の乗り物として、飛躍や前進を意味する縁起の良い動物として大切にされてきました。そして、丙は力強いエネルギーを象徴するものです。つまり、2026年は「力強く飛躍する年」ということです。

そこで、焼津市歴史民俗資料館と焼津小泉八雲記念館では今まで各館ごとに「資料館だより」・「記念館だより」を発行してきましたが、もっと皆様に、焼津の歴史文化等を知っていただきたいと想い、新たに『Yatizu City Museum Letter』と名前を変え、「両館合同のお便り」を発行することとなりました。

今まで以上に皆様に焼津の歴史文化に特化した情報をお伝えできるように頑張ってきます。楽しみにしていただけましたら幸いです。

本年も焼津市歴史民俗資料館・焼津小泉八雲記念館をよろしくお願いたします。

やまどんと行く

お散歩文化財

Vol. 2

あけましておめでとうございます!!今年もやまどんをよろしくお願ひいたします!

今回のお散歩文化財は、初詣編!ということで、焼津神社さんを紹介します!初詣にぜひ行ってみてください!



焼津神社の主祭神は「日本武尊」

まず、焼津神社でお祀りしている御祭神は「日本武尊(ヤマトタケルノミコト)」だよ。この日本武尊がでてるおはなしが「焼津」という地名の由来となったんだけど、みんな知ってるかな?

日本武尊を襲った敵が火を放ってきたところを、剣で草を薙ぎ払い、火打ち石で反対に敵側に火をつけ返し撃退したっていうお話だよ。この時焼いた海辺の土地で「焼津」*津は水辺の地。って言われているよ!この他にも、その文武両道な才覚を存分に発揮した伝説が数多く残されているんだ。



焼津神社の「のぼり祭り」

焼津神社というと、夏の「荒祭」が有名だけど、もう一つお正月特有のお祭りがあるんだ!

それは「のぼり祭り」だよ。

焼津といえば漁業の町。「のぼり祭り」とは、その焼津の漁師さんたちが元旦から三が日の間、焼津神社に大漁旗を立てて今年の大漁祈願や海上の安全祈願をする、というお祭りなんだ。漁師さんたちは、この大漁旗をより良いところを立てられるよう、新年になるとこぞ旗を立てて行くんだって!

皆も焼津神社に初詣に行く際には、焼津の漁師さんたちの様々な大漁旗を見てみてね!

焼津神社と小泉八雲

最後に、焼津と縁の深かった小泉八雲さん!

夏休みに長期間焼津に滞在していた八雲さんなんですけど、焼津神社は散歩中によく訪れていた場所なんだ。それに、浜通りの乙吉さんちの2階から、荒祭の様子をよく眺めていたんだって!山車に寄付などもしていたんだ。荒祭の事を大変気に入っていたことが分かるよね♪

残念ながら、八雲が焼津を訪れていたのは夏休み期間だけだったから、「のぼり祭り」をはじめ、夏以外の期間中に行われる行事について八雲さんは見ていなかったけど、もし八雲が見ていたらどんな感想を持ったのかなあ。そんな「もしも」に想いを馳せるのも、面白いよね。



YAZU.HEARN.REKI.MUSEUM

【発行・問合せ】
焼津市生きがい・交流部文化振興課 資料館担当
〒425-0071 静岡県焼津市三ヶ名1550
☎054-629-6847
表紙写真: 焼津神社

